

やまがた自慢

「諏訪神社」

市内「諏訪町」の町名の由来となっているのが諏訪神社です。御祭神は建御名方神（タケミナカタノカミ）、大国主神（大黒様）、事代主神（恵比寿様）です。樹齢200年を超えるケヤキやイチヨウが今も市民の心を癒やしてくれています。歴史は古く、文明6（1474）年の創建とされていますが、その由来には大変興味深いエピソードがあります。

当時、干ばつが続いて農作物が育たず、人々が大変苦しんでいました。その際、時の山形城主斯波義春公（最上義光公のご先祖です）の夢の中で、「汝信仰の心あらば辰巳の方角樹木蒼々にして莊嚴の域に遷座せよ」とのお告げがありました。その通りに神社を造成するため工事を始めたところ、数日後待ちに待った大雨が降り農作物も生育したといわれています。

最初の収穫物が茄子であったため、人々は茄子を神のご加護として言い伝え、現在でも諏訪神社の例大祭では茄子を供えて祈願しています。

例大祭は毎年9月27日です。近年では神輿会「水神會」も立ち上がり、盛大な神輿渡御も行われます。また、境内では定期的に骨董市が開かれるなど、市民の皆さんのにぎわいの場にもなっています。山形市中心地の鎮守の杜に足を運んでみてはいかがでしょうか。



山形市長 佐藤孝弘



子育ておしゃべりサロン

担当者に聞きました！

心落ち着く
地域の居場所

子育ておしゃべりサロンは、子育て中の親子などがおしゃべりを通して情報交換や仲間づくりができる交流の場。悩みがあってもなくても、気軽に足を運んでください。いつでもお待ちしております。



お子さんを近くに置きながらおしゃべりできるので安心です。

「ここに来れば、なんとかなると思って」

来てくださる方が、よく口にする言葉です。初めての子育ては、わからないことばかり。特別な悩みがなくとも大丈夫。いつ来ても、途中で帰ってもOK。ちよつと立ち寄って誰かに話すだけで、ふつと心が軽くなる。そんな場所でありたいと思っています。

リアルな温かさ

インターネットで大抵のことが分かり、子育て支援施設も増えてきた今、それでもサロンに足を運んでくださるのは、「ここにはリアルなつながりがあるから」。顔を合わせて話す温かさや安心感を、これからも大事にしていきたいと思っています。

地域の皆さんに支えられて

サロンは、多くの地域ボランティアや主任児童委員の方々に支えられて

子育ておしゃべりサロン

0歳から参加でき、母子手帳の交付を受けた妊婦さんも子育ての準備に利用可能。市・地区社会福祉協議会・ボランティア団体が運営し、市内34箇所毎月1～2回、公民館や地域集会所などで開催。予約は不要。場所・日時・内容はサロンごとに異なります。ぜひ、いろいろなサロンに参加してみてください。

問 ことも未来課（☎内線555）



問 農政課（☎内線455）

秋こそ味わいたい、
里芋のはなし

新鮮な里芋を選ぶコツ

- ①泥付きで適度に湿り気がある
 - ②ふつくら丸く、ずっしり重い
 - ③しま模様（しま）がくっきり等間隔
- ※乾きすぎたものやひび割れのあるものは避けましょう。

品種ごとの食感の違い

大きく2品種。土垂（どたれ）や悪戸芋（あくど）などの「ねっとり系」は、粘りが強くとろけるような口あたりで煮崩れしにくく、芋煮や煮

ころがしに最適です。一方、セレベスや八つ頭などの「ほくほく系」は、ほっくりとした食感で、煮物や揚げ物にすると味がしみて格別です。

山形市の伝統野菜「悪戸芋」

悪戸芋は山形市西部の悪戸地区の須川沿岸の肥沃な土地で古くから栽培されてきた里芋で、土垂芋という品種を数軒の農家で守り続けてきました。近年は意欲的に生産に取り組み農家もあり、栽培面積は約3haに増えてきたことから直売所などで購入することができるようになりました。

